

人の気もちを考えよう

小 二

「買い物をしてくるから、ここでまっ
ていてね。」

「うん。」

わたしは、お店の外のベンチにすわ
ってまっっていました。そこに、年をと
ったおじいさんがやってきました。

しばらくすると、おじいさんは立ち
上がろうとしましたが、なかなか立て
ませんでした。わたしは、だいじょう
ぶですかと声をかけようと思いました
が、どきどきして声がまったく出てきま
せんでした。わたしは、声が出ないので、
知らないふりをしていようと思いまし

た。

でも、おじいさんは何回も立ち上
ろうとしては、しっばいしてしまいま
す。そのようすを見ていたら、思わず
声が出てしまいました。

「だいじょうぶですか。何かこまっ
ていることがありますか。」

とわたしが言うと、おじいさんは、
「ありがとう。うれしいよ。」

と、ちよつとかれた声で答えてくれま
した。

わたしは、声をかけてよかったなど
思いました。

「こしがいたくてこまっっているんだよ。」
と、おじいさんは言っていました。

わたしは、おじいさんの手をもって、
せなかをささえました。おじいさんは、

立ち上がる事ができました。

「どうもありがとう。手をかしてもらえてたすかったよ。」

と言って、おじいさんは帰って行きました。

わたしは、五月一日のふれ合いしゅう会のことを思い出しました。その時、車いすにのっているA先生が、お話をしてくださいました。A先生は、かいだんをのぼったり、高いところのものをとったりする時にこまるそうです。でも、そんなときに、近くにいる人がちよつと手をかしてくれれば、みんなと同じことができると言っていました。おじいさんも、わたしがちよつと手をかしたら、立ち上がる事ができました。おじいさんは、とてもうれしそ

うにわらっていました。わたしも、おじいさんのえ顔を見て、とてもうれしかったです。

これからも、人の気もちを考えて、ゆう気を出して声をかけようと思いません。